

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	51
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	1	歴史文化の保存と継承		

1 施策の概要

基本方針	町内の貴重な歴史文化遺産や史料を後世に継承していくため、文化財指定制度を検討するとともに、調査研究、発掘・記録収集、保存措置、住民への周知、収蔵・展示施設の設置などを系統的に進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として、数施設に分散保管がされている。	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として、施設に保管されているとともに、町広報誌による一般供覧化を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	歴史や文化に対する住民意識は高まりを見せてきており、町広報紹介等により、一般供覧等が求められている。	歴史や文化に対する住民意識は高まりを見せてきているが、郷土資料については、保管並びに広報誌での一般供覧化にとどまっており、展示スペースの確保を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	B	歴史文化の保存と継承については、本町の歴史的な生活等を後世に伝えていくうえで必要な施策である。
② 有効性	C	歴史文化の保存継承については、直接的に効果が生じる施策の推進がやや弱かったところがあり、今後さらに施策の有効性を高めていく必要がある。
③ 効率性	C	歴史文化の保存継承については、施策を構成する事業展開がやや弱かったところがあり、今後さらに施策の効率性を高めていく必要がある。
④ 公平性	C	本施策については、住民全体に供覧可能な状況にはないが、町広報誌における郷土資料の紹介等により周知が図られている。
⑤ 町民意見の反映	C	歴史文化の保存継承については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れているが、今後町民から広く意見を取り入れていく必要がある。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
D	D	
歴史文化の保存継承について、直接的に効果のある取組が弱かった面があり、必要な見直しを行いつつ、郷土資料の一般供覧化について推進を図っていくものとする。	同左	

今後の方向性

継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
歴史文化の保存事業について、計画的な施策展開事業の検討を行うとともに、郷土資料の展示については、住民各層の参画を得て検討し、推進していくものとする。	同左	

\*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止